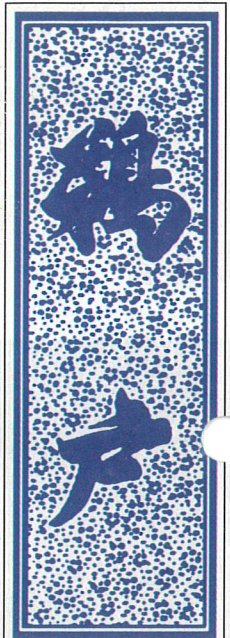




11月12日 油津駅にて



発行者兼編集者
 鵜 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷

ご あ い さ つ

寒中御見舞
 申し上げます。

宮司 佐師 朝規



平成八年の新しい年を迎え年頭の御挨拶
 を申し上げます。

天皇皇后両陛下におかれましては、昨秋
 十一月十二日南市漁港で開催された第十
 五回豊かな海づくり大会に御臨席遊されま
 した。当神宮におきまして十日行幸啓の御
 安泰祈願祭を齎行致し、十一日午後五時半

よりホテルオーシャン45に於いて山本侍従長を通じて幣饌料を拝受し又、夜には
 日本の伝統と文化を守る県民会議の主催により約二千人の人が提灯行列にて御来
 県を歓迎し、両陛下への万歳が繰り返され盛会でありました。

十二日には「豊かな海づくり大会」に参列の榮に浴し、十四日午前十一時大祭
 により、御還幸並に幣饌料の奉告祭を齎行し、二十日には東上して両陛下に御礼
 の記帳をなし無事に奉仕する事が出来、誠に有難き極みでありました。

尚、昨年八月二十五日午前十一時二十八分、秩父宮妃殿下御薨去遊され一昨年
 前御気嫌奉伺の砌には、車椅子にかけられ拜顔並に親しく御言葉を賜りましたの
 に誠に痛恨の極みで御座います。

心より御冥福をお祈り申し上げます。

社頭におきましては、参拝者も激増し愈々境内の整備に専念致し、職員一同協
 力一致し神宮の発展と御神徳の高揚に努めたき所存でありますので、此の上とも
 一層の御力添へ賜りますようお願い申し上げます。

尚氏子崇敬者皆様方の御繁栄と御多幸を祈念申し上げ御挨拶と致します。



こども神楽奉仕者

◎こどもかぐら奉仕者
 ○榊の舞・川添麻衣
 ○献穀の舞・渡邊裕己・河野秀幸
 ○エビスの舞・福田雅彦・田中厚次
 ○鈴の舞・外山裕香・関屋杏菜



献穀の舞



榊の舞



鈴の舞



エビスの舞

新嘗祭 齋行

十一月二十三日冬の訪れを思わせる寒さの中、午前十一時より宮司以下祭員奉仕のもと、新嘗祭が齋行され責任役員・氏子崇敬者総代を始め、官公庁・各地区々長・敬神婦人会・一般崇敬者等、約百六十名の参列を賜った。

新嘗祭は、その年に収穫された稲や穀物を神々に捧げ、その恵みに感謝する祭りであり日南・串間市を始め、南那珂郡内の各地区から、献穀米・献酒・献菓子等が奉納され祭典の雰囲気を感じ上げた。

又、今年も地元の鵜戸小学校四年生による「こどもかぐら」が奉納された。

尚、奉納者・こどもかぐら奉仕者は次の通り。

◎献米奉納者
 伊比井地区・平山地区・坂元自治公民館・乙東地区・殿所



地区・益安地区・太夫自治公民館・甲東地区・内之田自治公民館・伊十川自治公民館・酒谷大谷八区・常明寺自治公民館・大浦地区

◎献備品奉納者
 谷口醸酒・フンドー
 キン醤油日南営業所・ヤマエ販売日南営業所・古澤酒造・小玉酒造・松の露酒造・京屋酒造・井上酒造・王手門酒造・桜乃峰酒造・谷口酒造・松露酒造・宮崎県酒造・鵜戸小学校・宮崎銀行油津支店・安藤喜俊・津田酒店・鵜戸郵便局・

◎御初穂料奉納者
 日南郵便局・村中酒店・長友治義・山村昇・鵜戸中学校・鵜戸駐在所・加藤俊・とらや菓子店・杵屋菓子店・はとや菓子店・福田菓子店・とおる屋菓子店・横山菓子舗・サンキュー堂・安藤明月堂・吉村菓子店・竹井菓子中央店・志津屋菓子店・松屋

宮崎太陽銀行・宮崎太陽銀行油津支店・上杉光弘・田中義春・海老原秀夫・松原地区・南郷信用金庫日南支店・竹山幸敏・清藤辰夫・南部信用組合日南支店・河野春水・宮田廣安・小目井地区・小吹毛井地区・鵜戸水産湯浅勝好・鵜戸地区・持永和見・油津区長会・氏子総代会・鵜戸神宮敬神婦人会



第十五回全国豊かな海づくり大会報告

両陛下におかれましては十一月十一日より十三日迄宮崎へ御来県なされ、十二日には豊かな海づくり大会御臨席の為、当地日南市へ御行幸なされた。

月十日には行幸啓安泰祈願祭(中祭式)と、十一月十四日には幣饌料御下賜奉告祭及び還幸啓奉告祭(大祭式)が責任役員・氏子崇敬者総代参列のもと、宮司以下祭員奉仕により斎行した。



魚の稚魚を放流される両陛下



大会会場にて



幣饌料御下賜奉告祭



- 一月一日 歳旦祭
- 一月三日 元始祭
- 一月十日 日南地区交通安全祈願祭
- 一月十七日～十九日 五神宮宮司会宮中参賀
- 一月二十日～二十一日 九州地区別表神社宮司会出席の為宮司宮崎市へ出向
- 一月二十一日 福岡県囊祖八幡宮宮司青柳正寿氏参拝
- 一月二十五日 宮内庁桃山御陵監区事務所所長寺田喜彦氏他三名参拝
- 二月一日 例祭
- 第二十三回鵜戸神宮四半の大会
- 九州管区警察局長国枝英郎氏他四名参拝
- 第四十二回剣法
- 二月五日 発祥鵜戸山顕彰剣道大会
- 二月八日 鵜戸稻荷神社例祭



寺田 喜彦氏

- 二月十一日 紀元祭
- 香川県浪打八幡神社宮司吉田成隆氏他44名参拝
- 熊本県市房山神宮宮司工藤駿介氏他26名参拝
- 二月十七日 祈年祭
- 二月十八日 広島東洋カープ必勝祈願祭
- 二月二十七日 國學院大学栃木短期大学教授授沼部孝友氏参拝



全国敬神婦人会連合会

- 三月七日 奈良県葛神社宮司藤田良治氏他役員総代参拝
- 三月九日 福井県佐々年神社宮司田中弥憲氏他参拝
- 三月十五日 責任役員会
- 三月二十日 宮崎昆虫同好会・魚木百本奉納
- 三月二十六日 シャンシャ大会決勝
- 三月二十六日 シャンシャン馬道中唄全国大会決勝
- 三月二十七日 中新婚三組参拝
- 第三授与所竣工祭

- 四月十八日 鹿児島県神社庁始良支部支部長川上親昌氏他57名参拝
- 四月二十日 全国敬神婦人連合会会長東園佐和子女史他33名参拝
- 四月二十四日 本殿県文化財指定奉告祭
- 四月二十六日 責任役員会
- 四月二十八日 春凌会(春日大社)七名参拝
- 氏子・崇敬者総代会



上杉 千郷氏

- 五月五日 節句祭奉祝行事
- いさみ太鼓奉納
- 五月六日 氏子総代委嘱式
- 五月九日～十日 九州地区連合神職総会出席の為宮司他職員三名宮崎市へ出向
- 五月十日 長崎県諏訪神社宮司上杉千郷氏他七名参拝
- 五月十一日 本殿文化財指定公布授与の為宮司県庁へ出向
- 宮内庁(御料牧場)次長石井昭一氏他二名参拝

- 五月十二日 崇敬者総代委 囀式
- 五月十九日 别当官司先賢 慰霊祭
- 五月二十五日 宮内庁長官 官房主計課長松田広光氏他二名 参拝
- 五月二十九日 鶴戸神宮敬神婦人会総会
- 六月一日 責任役員委囀式
- 六月二十一日 京都神社本 教若宮八幡宮宮司松井氏他十二名参拝



栗田 啓二氏

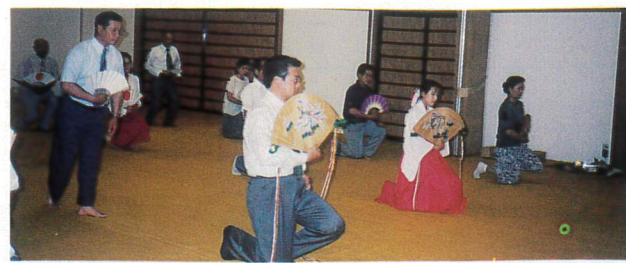
- 八月七日 昭和天皇行幸啓 関係資料収集の 為宮内庁書陵部 岩壁義氏他四名 来宮
- 八月二十九日 秩父宮妃 問の為宮司上京
- 八月三十日 五神宮司会
- 九月九日 県神社庁総会出席の為宮司・役員・総代・職員 神社庁へ出向
- 九月十三日 大分県霜凝神社宮司長山義徳氏他88名参拝



奥 茂樹氏

- 十月十二日 責任役員品原和雄氏本庁敬神 表彰
- 十月十七日 責任役員会
- 十月十八日 広島県神社庁 副庁長奥茂樹氏 他2名参拝
- 十月二十八日 赤穂市大石神社宮司飯尾精氏参拝
- 十一月三日 明治祭
- 十一月四日 元伊勢神宮技師新井氏参拝
- 十一月十日 天皇・皇后兩 陛下幸啓安泰 祈願祭

- 十一月十日 千葉県王子神社 社松橋宮司他氏 子40名参拝
- 十一月十一日 幣饗料授受の為宮司・職員 二名出向
- 十一月十四日 天皇陛下幣 饗料御下賜奉告 祭及び天皇・皇 后両陛下還幸啓 奉告祭
- 十一月十五日 文化庁稲葉 信子文化調査官本 殿調査の為来宮
- 十二月二十日 宮中御上御 礼の為宮司上京
- 十二月二十三日 新嘗祭
- 十二月二十六日 山口県赤 崎神社社他田宮 司他40名参拝
- 十二月二十二日 五神宮職員会
- 十二月二十三日 天長祭
- 十二月二十七日 煤払祭
- 十二月三十一日 大祓祭・除夜祭



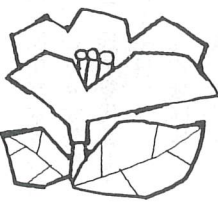
南那珂神職会研修会

- 六月三十日 大祓式
- 七月四日 日南地区産業安 全祈願祭
- 七月九日 都山流尺八教授 荒木修山氏来宮 本殿にて尺八吹 奏奉納
- 七月二十一日 宮内庁書陵 部桃山陵墓監区 事務所副所長高 田慶昭氏他二名 参拝
- 七月三十一日 南那珂神職 会朝日舞・浦安 舞研修会



五神宮宮司会

- 十月十七日 責任役員会
- 十月十八日 広島県神社庁 副庁長奥茂樹氏 他2名参拝
- 十月二十八日 赤穂市大石 神社宮司飯尾精 氏参拝
- 十一月三日 明治祭
- 十一月四日 元伊勢神宮技 師新井氏参拝
- 十一月十日 天皇・皇后兩 陛下幸啓安泰 祈願祭



琵琶楽の発祥地鵜戸

九州に於ける琵琶の伝来は、浄楽院記録によると、「欽明帝の御宇神祇大政大臣の御子一人盲目となり給ひ其の名を遊教霊師と申す日向國鵜戸の岩屋に流され給ふ其の時唐土より盲僧来朝して遊教霊師に地神陀羅尼經及土公神の法琵琶の妙音曲を授け興せり霊師希有の思をなし謹みて朝暮五穀成就・國土安民を奉祈居り候處、天皇批事を觀感不淺内裏へ被召右傳授の法授の法聽聞有り、帝王殊勝思召其の名を大臣坊と倫言を下し一寺を建立し玉ふ」とあり御年十一歳であったといふ。

この鵜戸の窟に於いて琵琶で地神陀羅尼經を読み弾きし朝暮れ五穀豊穰・國家安泰の祈願が奏上されていた。

この遊教霊師は祐教禮師又は祐教禮子とも記されている。佛教の日本への伝来は欽明天皇十三年となつてゐるが、九州に於ける伝来は民間ではこれよりも早く、祐

教禮子の存在を事実とみるならば、日向の鵜戸には佛教と琵琶は欽明天皇御宇以前に伝来してゐたことがわかる。

雅楽琵琶は後世大寶年間に唐樂と共に伝来したとあり、独奏楽琵琶は更にそれよりも後承和六年に藤原貞敏が唐から帰朝する折に青山玄象の二名器を伝来したのに始まるとある。

「人王四十三代元明帝御宇土公地神荒ひ給ひて内裏不安博士を召して占を賜ひしに土公地神の咎ならんと奏ければ、則鎮西九州の盲僧寺へ勅使を下し給ひしかは上京参内して内裏の八方に真砂子を敷八方に檀を莊り五色の幣帛五色旗を飾り七日七夜土公地神の法を修行す内裏忽ち静謐に治りければ觀感不斜盲僧寺へ日本國中土用經讀誦回國致すべく旨勅許を下し賜ふ又地神盲僧の僧の稱を賜ふ」とあり、始めてこの時盲僧としての名を与えられ全国的に知られるようになった。

和銅二年元明天皇居御造営の折に九州から八人の盲僧が勅命により上洛し琵琶を弾し地鎮祭を肅行したが、この八人とは筑前から佐理養・麻仁養、筑後から化佐養・伊麻養、豊前から徳養、肥後から麻須養、薩摩から他化養、日向から興根養である。

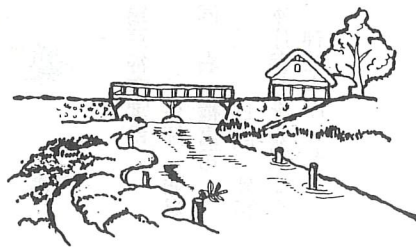
尤もこの上洛前に大寶僧尼令で僧尼の音楽は禁止されてゐたから、若し琵琶を弾じたとすなら琵琶は一種の琴であるといふことで許されてゐたか、さもなれば儀式用として許されてゐたのであろう。

日向から上洛した興根養とはどこに住んで盲僧かわからないが、鵜戸神宮と全然関係のない人物とは思えない。祐教禮子・興根養の事蹟は正史に出てないが、九州の盲僧琵琶が鵜戸から発祥したとだけは古くから一般に信じられてゐたので、この盲僧琵琶は薩摩琵琶・筑前琵琶の源流をなすものであり、又これが比叡山に伝わり天台盲僧を生じた天台聲明の基礎となつたのである。

又九州の盲僧は著しく神官的傾向を帯びるもので、

鵜戸が天台宗で神佛習合を行つてゐたことなど考えると鵜戸神宮が琵琶楽発祥地だと云ふことがわかる。

(㊦)



謹賀新年

- | | |
|-----|-------|
| 宮司 | 佐高朝規 |
| 権宮司 | 三輪吉治 |
| 祢宜 | 谷口正史 |
| 権祢宜 | 永藤謙二 |
| 主典 | 中野健治 |
| 斎女 | 古原慎太郎 |
| 巫子 | 鈴岡ひろみ |
| 衛士 | 湯浅好一 |
| 宮務員 | 安部一彦 |
| 囀託 | 杉原与市 |

七五三詣

朝夕の冷え込みも次第に増し、冬の足音も近づき始めた十一月に入ると、七五三詣に訪れる家族の姿が目に入り始めた。

七五三詣は、今日までの子供の健やかな発育に感謝すると共に、これからの成長を神様をお願いするお参りである。



『今昔』

左写真は、昭和二十年頃の現在の神門付近を撮影したものであります。



当時の皇子神社例祭御神幸風景

現在では、鳥居は無くなっておりませんが、神門と桜門の二つの御門が参拝者を迎えております。

委嘱

鵜戸神宮宮司

佐師 朝規

同 右 権宮司

日高 輝和

本庁参与を委嘱します。

神社本庁(七月一日)

辞令

昇進

鵜戸神宮権宮司

日高 輝和

神職身分二級上とする。

神社本庁(九月一日)



責任役員

品原和雄氏

表彰される。

十月十二日、神社本庁に於いて、責任役員 品原和雄氏が功労顕著な者として、神社本庁より表彰された。これは永年の功績が認められたものであり、当宮としても大変光栄な事である。

